

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：梶原貴子 所属：武雄市立北方小学校 記録日：2018年 2月 19日

キーワード：不登校、学習意欲、学習保証、事前学習、コミュニケーション

【対象児の情報】

○学年 小学5年生 女児 Aさん

○障害名 自閉スペクトラム症

○障害と困難の内容

- ・小学校入学2週間ぐらいで不登校となったため、学校での過ごし方に見通しがもてない。
- ・学習空白が長いため、苦手意識が強く経験も不足しており、学ぶ意欲が低下している。
- ・多人数が苦手で、関われる人や場所が少ない。

【活動目的】

○当初のねらい

1. スケジュールを把握し、学校や家庭での過ごし方に見通しをもつ。
2. 調べる方法や確認する方法を身に付け、学びへの意欲をもつ。
3. 周囲と情報を共有する機会をもつ。

○実施期間 平成29年5月～平成30年2月

○実施者 梶原 貴子

○実施者と対象児の関係 特別支援学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・規則正しい生活が定着しておらず、夜寝る時間が定まっていない。朝起きた時の気分で登校するかしないかを決めている。給食も苦手であり、不登校傾向である。小学校入学2週間ぐらいで不登校となったため、学校生活の流れやリズムが分からない。
- ・学習空白があり、年齢相応に読むことはできるが、書くことは苦手である。特に漢字やカタカナは、形を覚えている字もあるが、書き順はあやふやで、正しく書けない字が多い。計算は、自分のやり方で数えながらできる。ひき算は、繰り下がりがなければ、暗算でもできる。かけ算は、少し覚えている段がある。わり算は学習していない。学習の見通しが持ちづらく、定着への取り組みが継続しにくい。
- ・人数が多いところが苦手なので、支援学級内にパーテーションで区切った自分用の部屋がある。休み時間や自立活動では、5人ぐらいでの活動なら参加できる。人数が多くなると、パーテーション内の自分の部屋に戻ることもある。交流学級に行くことはない。2年前から関わっている支援員や担任、年下の児童とは会話ができる。

○活動の具体的内容

1. 見通しがもてる

- ① 1対1でじっくり関わる時間を保証するために週7時間、担任とAさんだけの授業時間を設定した。
- ② 時間割や給食の内容を事前に「By Talk for School」で知らせた。
- ③ 欠席した日も「By Talk for School」を通して、Aさんと担任とのやり取りをした。

「By Talk for School」

『コミュニケーションのツールとして活用』

- ・遠隔での意思確認ができる。
- ・スタンプや絵文字が使える。
- ・グループが分けられる。
- ・写真や動画も送ることができる。



⇒ 文字の読み書きが困難でも
コミュニケーションが取れる。

【保護者とのやり取り】

最初の頃は、Aさんからの返信はなかったが、保護者からは、きちんとAさんがメッセージを見ているとお話を伺っていた。返信はなくても、担任からのメッセージを送り続けていると、やがて、Aさんからの返信がくるようになった。

【Aさんとのやり取り】



2. 学ぶ意欲がもてる

- ①昨年度は、教室に入ることができなかったが、安心して学べる居場所づくりとして、Aさんと話し合った結果、学びの場を支援学級内に置いた。Aさんが安心してできるように、教師の机の一番近いところに一人になりたい時のスペースを置いた。一人のスペースのパーテーションをやや低めにすることで、Aさんは、他の児童の学習の雰囲気を感じたり、興味を示し覗いたりしていた。
- ②Aさんとの学習では、PCソフト「ランドセル小学生(かくげい)」を使用し、その問題に対して、自分に合った調べ方で調べながら回答した。Aさんの学年である5年生用には、国語、算数、理科、社会、英語、音楽、家庭、タイピングなどのジャンルがあった。



【国語】



「筆順辞典」

『漢字の知識を確認するツールとして活用』

- ・探したい漢字を手書き認識してくれる。
- ・漢字が大きくて見やすい。
- ・筆順をなぞることができる。

⇒ 漢字を習得していなくても、漢字の意味や筆順を簡単に検索し、確認できる。



【算数】



【音楽】



【タイピング】



→③ 苦手意識の強いAさんだったので、事前学習をし、学習意欲を持たせて新しい学習へ取り組んだ。
Aさんのこれまでの経験不足が苦手意識を招いていた部分もあったので、学習面だけでなく生活面にもつながるような活動を学習の中に取り入れていった。

☆家庭科「卵や野菜をゆでよう」

「NHK for School」

『事前学習ツールとして活用』

- ・各教科の学習動画を視聴することができる。
- ・見たい動画がワード検索できる。

⇒ 読みが困難でも、動画で耳や目の情報から学ぶことができる。

やったことある！
できる！

☆体育科「プールで泳ごう」

プール掃除

プールの水の量の確認

プールで泳ぐ

苦手なシャワーの練習

☆自立活動「わんぱく大冒険にチャレンジしよう」(宿泊学習へ行く前に、事前に現地で体験する)

「Map」を使って目的地までを確認

いろんなミッションにチャレンジ

☆自立活動「バスに乗って、買い物へ行こう」

バスの乗り方の確認

整理券を取る

運賃表を見る

ボタンを押す

お金を入れる

バスに乗って、買い物に行けたよ。」

→④ Aさんの学習空白が長かったため、興味のあることやこれならできそうだと自信をもてそうな学習から取り組んでいった。

☆国語科「友達へ年賀状をかこう」

宛名を書く

筆順 常用漢字

明けましておめでとうございます
今年もよろしくお祈りします。

帰り道ポストに投函する

同級生の友達から、冬休み中に、年賀状の返信が届いた。

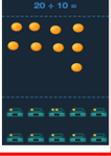
☆算数科「かけ算とわり算」

「掛け算」

『かけ算やわり算の学習の意欲づけとして活用』

- ・かけ算の答えの図が出てくる。
- ・わり算では、分けるという算数的活動を行いながら答えを導き出せる。

⇒九九を暗記していなくても問題が解ける。




↑ 63÷7を7この箱にボールを分けながら計算中



↑ 9×2を下の図を見ながら考え中



↑ かけ算の問題例

☆国語科「ことばの学習」

「ことばのテーブル」

『言葉の学習として活用』

- ・選択式の学習プリント
- ・1枚あたりの問題数が少ない




↑ 絵を手がかりに文章を完成させる



↑ 同じ仲間の言葉を線でつなぐ

3. 関わりを増やす

→① 自立活動や休み時間に、ものづくりや遊びを通して支援学級の友達や担任以外の先生との関わりを増やした。

☆自立活動「教室かざりをつくろう」



Aさんの作品



3年生3人に教える



教頭先生や校長先生へ教える

☆国語科「3年生に読み聞かせをしよう」



↑ 絵本の中から興味がある本を読む



↑ 3年生へ「シンデレラ」の読み聞かせをする



↑ 休み時間に絵本を読ませてあげる

→②校内の支援学級3クラス合同での自立活動にAさんも参加できるように働きかけ、交友関係を広げた。

・支援学級3クラス合同での自立活動

参加できたよ！

5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
いちご狩り		プール遊び		芋まじり芋料理	バルーン見学	クリスマス会		おでん作り	お別れ会



「佐賀バルーン大会へ電車で行く」



→③5年生の交流学級や同級生との関わりを増やした。

☆自立活動「生花を交流学級へプレゼントしよう」

何色のお花がいいかな



花を買いに行く

長さは...

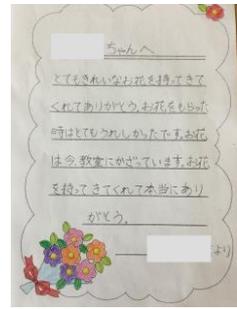


自分でアレンジする

教室に飾ってください



届けに行く



お礼のお手紙が届いた！

☆自立活動「ハロウィンパーティーに招待しよう」

どのイラストがいいかな



キャンディーレイを作る

2週間後

どんな形がいいかな



さつまいもクッキー作り



楽しくパーティー

プレゼントも渡せた



笑顔で記念写真

→④人と関わったことを記録に残していった。

「絵日記」

『活動の記録を残すツールとして活用』

- ・写真を取り入れることができる。
- ・文字を入力していくと予測機能が使える。
- ・出来上がったものはアルバムとして残すことができる。



⇒ 書くことに抵抗があっても出来上がりがきれいで満足感がもてる。



→⑤経験不足もあり、居場所が限られることが多かったので、活動できる場所を増やした。最初は、担任とAさんの2人でいろいろな場所に学習をしに行っていたが、人数が多くて、活動できる場所が増えていった。

調理実習後、校長室へ



バドミントンをしに体育館へ



読書をしに図書室へ



「避難訓練」・・・運動場



「クラブ活動」・・・6年生の教室



「給食」・・・交流学級の教室



「冬休みを迎える会」・・・体育館



○対象児の事後の変化

1. 見通しがもてる

成果



Aさん

私は、時間割と献立表、ちゃんと見てるよ。

給食が食べられないときはお母さんにお弁当作って予約してるよ。

先生、帰ったら〇〇送るね。

- ・Aさん自身が、学校での過ごし方に見通しがもてるようになり、安心して登校できるようになった。
- ・登校していない時も、by talkを通して、Aさんの様子を知ることができた。
- ・Aさんの方から、送りたいメッセージや画像を送るようになった。

2. 学ぶ意欲がもてる

成果



- ・事前学習をすることで、学習に自信を持って取り組むことができるようになった。
- ・文章の音読をしたり、書く学習をしたりできるようになった。
- ・苦手なことでもやってみようという挑戦する場面が増えてきた。

3. 関わりを増やす

関わりが増えた！

人

- ・Mさん(6年女児)
- ・学校支援員(1人)

場所

- ・多目的室(自分の居場所)
- ・職員室(給食を取りに行く)

- ・支援学級の友達(12人)
- ・5の1の友達(3人)
- ・担任・校長・教頭
- ・支援学級の先生(2人)
- ・学校支援員(2人)
- ・教職員(4人)

- ・支援学級
- ・5の1教室
- ・校長室
- ・調理室
- ・図書室
- ・運動場
- ・職員室
- ・プール
- ・体育館
- ・事務室
- ・保健室

成果



Aさん

(校内掲示の写真を見ながら、) 名前はわからないけど、この先生知ってるよ。

5年生の〇〇ちゃんと私の名前の漢字が一緒だよ。

- ・関わる人や場所が増えてきた。
- ・同級生と「話したい」「遊びたい」という想いが強くなってきている。
- ・休み時間や下校中など、同級生や支援学級の友達からの話しかけに、身振りや言葉で答えられるようになってきた。

4月のAさん

小学1年生から
不登校

学習空白が長い

苦手意識が
強い

経験不足

多人数が苦手

給食が苦手

居場所がない



現在のAさん

学校に来る目的が
見つかった

得意なことや興味
のあることから
学習に取り組める

「できるよ」
「できそうかも」

少しずつ経験が
増えてきた

お弁当にしたり
食べられる給食
だけ食べる

支援学級の児童や
同級生と過ごせる

支援学級や
交流学級で過ごせる

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

☆不登校傾向の児童に対して、学校生活での見通しをもたせることができれば、安心して登校することができる。

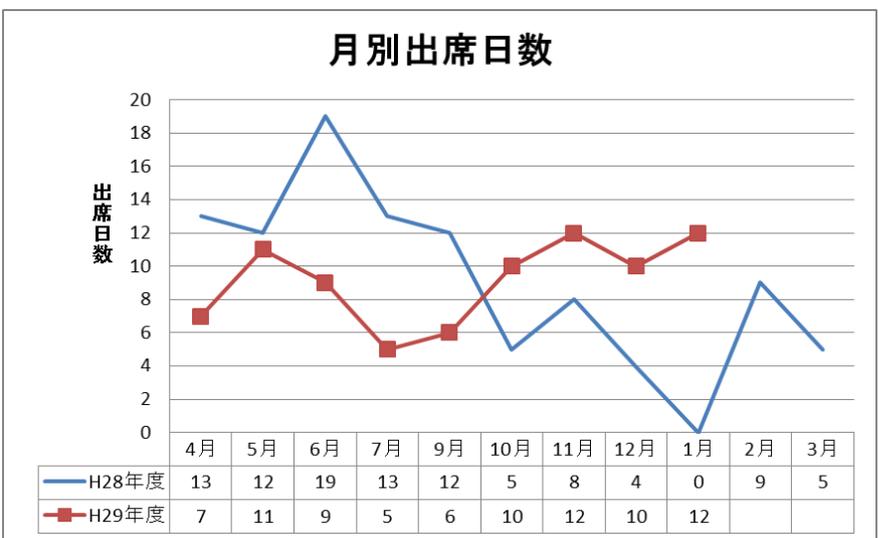
☆学習空白が長い児童に対して、学ぶ意欲がもてるように学習の内容や方法を工夫すれば、私も「こうすればできるんだ」と自信を取り戻すことができる。

☆児童の得意なことや興味のあることから人との関わりを増やすことで、相手意識や友達意識が芽生え、相手に「伝えたい」「知りたいな」と思うことができ、活動できる場所も広がっていく。

○エビデンス

・登校日数の安定と増加

月別出席日数を調べると、4月から夏季休業までは、昨年度に比べ今年度は出席日数が少ないが、10月からは、急激な出席日数の増減はなくコンスタントに登校できている。これは、昨年度は、登校することが第一の目標であったことに比べ、今年度は、学校に来る目的が見つかったためであると考えられる。



・初めて参加できた学校行事や支援学級での活動

5月～8月 <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習（いちご狩り） ・運動会（校舎の中から窓越しに見学） ・プール掃除 ・視力検査 ・夏休みの登校日 	9月～12月 <ul style="list-style-type: none"> ・市教委訪問（授業参観） ・芋ほり ・校外学習（バルーン見学） ・避難訓練 ・マヨネーズ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動 ・ふれあいまつり（日曜参観） ・クリスマス会 ・冬休みを迎える会
		1月～2月 <ul style="list-style-type: none"> ・なわとび大会

・その他エピソード

Aさんに同級生の友達がほしいという願いがあったので、4月から段階をふんで、「Aさんと担任」→「Aさんと支援学級内の児童」→「Aさんと支援学級3クラスの児童」→「Aさんと同級生数名」→「Aさんと交流学級児童」という流れで関わりを広げてきた。12月に交流学級で給食が食べられるようになり、1月には、交流学級で調理実習ができるようになった。

交流学級での家庭科の授業に参加できた！



また、これまでは保護者の車で送迎で登下校していたAさんだったが、歩いて登下校できるようになった。同級生と下校する時もあり、笑顔がさらに増えた。

歩いて登下校することができた！（登校・・・2回、下校・・・20回）



・保護者からの手紙

- ・他の子と違って、「自分にあった学び方をしている」と受け入れられるようになった。
- ・担任の先生と信頼関係ができた。
- ・学校へ行く目的が「遊び」から「学び」へ変わった。

魔法のプロジェクトが始まる前から、「みんなと同じようにプリントたくさんできない」「みんな（iPad）使っていないから使っちゃダメ」と話していました。娘にとって、学校では他の子と同じ学び方ができなければいけないと強く思い込んでいたのです。魔法のプロジェクトに参加させていただいたことで、自分が得意なことだけではなく、苦手なことも受け入れられるようになりました。

また、担任の先生の関わりのお陰で、他の子と違って学べることを実感できています。「今の自分をそのまま受け入れてくれる先生がいる」と感じられたことは、担任の先生への信頼関係を築ききっかけとなり、活動も広がりました。そして、昨年度までは「学校は遊びに行く場所だ」と捉えていた娘が、「学校は自分も学べる場所だ」と変わったことで、行く目的も成長も格段に違ってきます。

○今後の見通し

- ・登校できなかった日の家庭での学習内容
- ・Aさん自身の手法での学習の仕方の習得
- ・同学年や他学年との交流の機会を増やす
- ・中学校進学へ向けて、小中の連携